



平成24年8月2日

報道機関 各位

東北大学大学院理学研究科

国際シンポジウム「科学の不定性と社会 ～ いま，法廷では..? ～」 ブリーフィングのご案内.

原発，地球温暖化への対処など，科学だけでは正解が出せない先端技術・環境予測などで，市民，行政，そして司法は，科学的知見や専門家にどう向き合い，主体的判断に活用できるでしょうか。本ブリーフィングでは，シンポジウムの問題意識を，コンカレント・エヴィデンス *¹方式の新しい科学裁判を普及させた豪州NSW最高裁判所マクレラン判事，科学の不定性*²と社会的意思決定の理論家であるサセックス大学スターリング教授（科学政策論）を招聘する趣旨と合わせてご説明します。

本シンポジウムは、独立行政法人科学技術振興機構 社会技術研究開発センター「科学技術と人間」研究開発領域、研究開発プロジェクト「不確実な科学的状況での法的意思決定」の一環として行っているものです。

*¹ コンカレント・エヴィデンス オーストラリア発祥の新しい科学裁判の方法
*² 科学の不定性 社会との接点で科学が持つ，科学では解を一つに定め得ない性質

日時： 8月8日（水） 午後1時～午後3時

場所： JST東京別館2階セミナー室：東京都千代田区五番町7 K's 五番町

出席者：常磐大学 吉良貴之、総合研究大学院大学学融合推進センター 平田光司

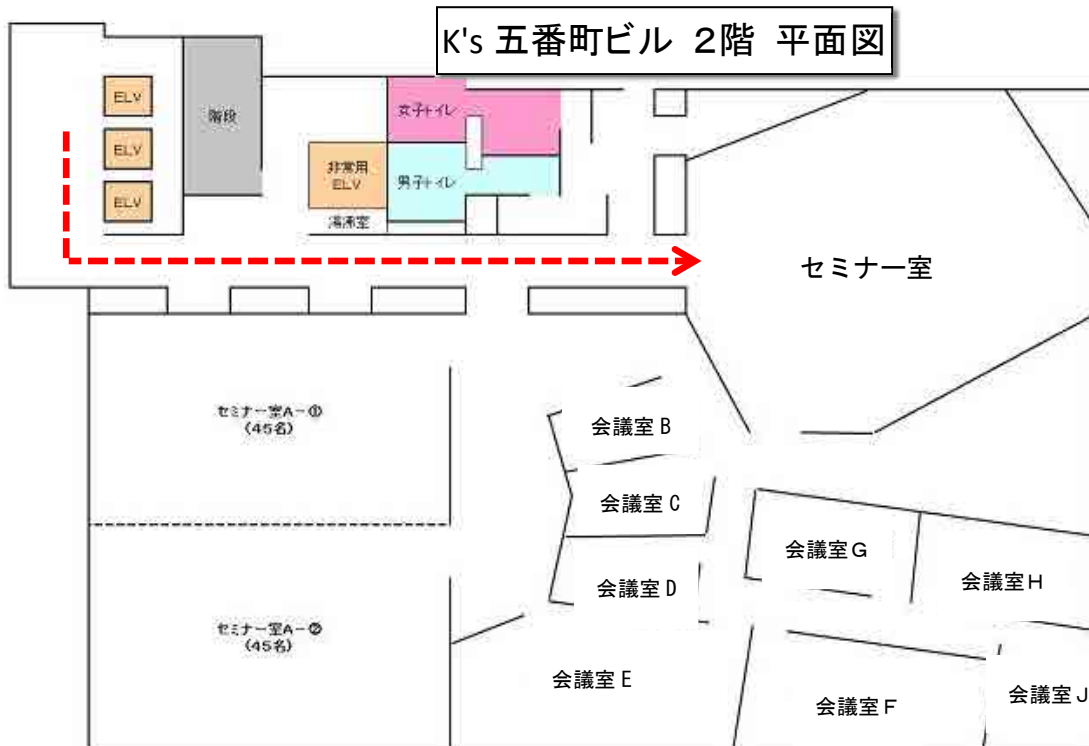
国際基督教大学 中島貴子、東北大学大学院理学研究科 本堂 毅

当日配布資料：コンカレント・エヴィデンス日本語版ビデオ、スターリング氏の研究紹介（日本語訳）など。

お問い合わせ先：

東北大学大学院理学研究科 国際シンポジウム事務局
担当（大石，本堂） tel. 022-795-5823, fax. 022-795-5831
sy826@mail.sci.tohoku.ac.jp

シンポジウムWeb：<http://www.sci.tohoku.ac.jp/hondou/0826/>



10:00
|
14:30

「科学の不定性と裁判：科学者の視点から」

本堂 毅 (東北大学理学研究科)

「“コンカレント・エヴィデンス” とその制度的含意」

吉良貴之 (常磐大学)

「Concurrent Evidence：専門家を活用する現代的手法」

Peter McClellan (オーストラリア NSW 州最高裁判所コモンロー首席判事)

「専門知を意思決定にどう使うか：日本の状況における問題点」

尾内隆之 (流通経済大学法学部)

「科学の不定性に向き合う：方法論と政策の可能性」

Andrew Stirling (英国サセックス大学)

14:30
|
15:30

「科学の不定性と法を扱うための『ハンドブック』, そ

15:30
|
18:00

Peter McClellan
(オーストラリア NSW 州最高裁首席判事)

Andrew Stirling
(英国サセックス大学)

小林傳司
(大阪大学)

米村滋人
(東北大学)

渡辺千原
(立命館大学)

18:00
|
20:00